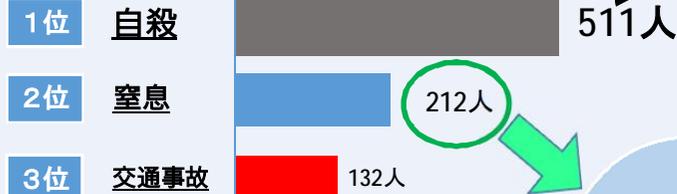
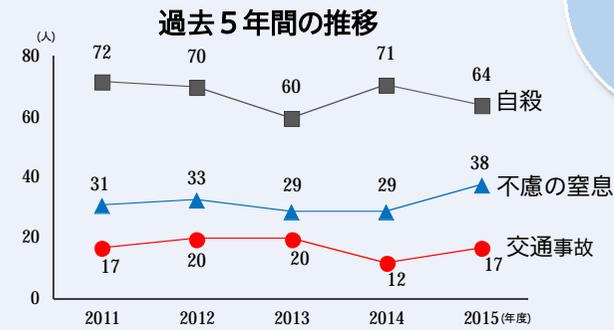


## 死因について(病気を除く)

平成21から27年度の累計では、自殺が最も多く、次いで窒息、交通事故となっている。



20代から50代の男性が半数を占める。

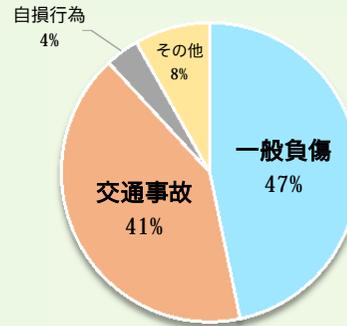


「窒息」は、高齢者に多い

## けがや事故について

### 救急搬送の状況(病気を除く)

「一般負傷」と「交通事故」が、全体の約9割を占める。  
乳幼児と高齢者は、「一般負傷」が最も多く、少年と就労世代は「交通事故」が最も多い。



救急搬送要因の年代別順位 ※平成22年から平成28年の累計

| 順位 | 乳幼児(0-6歳) | 少年(7-17歳)   | 就労世代(18-64歳) | 高齢者(65歳以上)  |
|----|-----------|-------------|--------------|-------------|
| 1  | 一般負傷 877人 | 交通事故 1,129人 | 交通事故 6,355人  | 一般負傷 6,363人 |
| 2  | 交通事故 283人 | 一般負傷 499人   | 一般負傷 3,044人  | 交通事故 1,784人 |
| 3  | 加害 4人     | 運動競技 418人   | 自損行為 693人    | 自損行為 115人   |

郡山地方広域消防組合「救急搬送データ(国表)」より

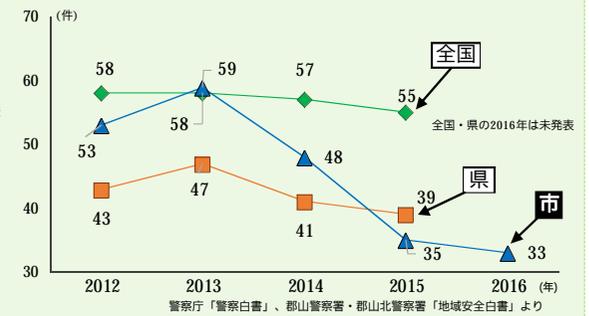
### 交通事故の発生状況(人口10万人あたり)

減少傾向が続いている。  
2015年に全国を下回るが、県より多い。



### 凶悪、粗暴犯の発生状況(人口10万人あたり)

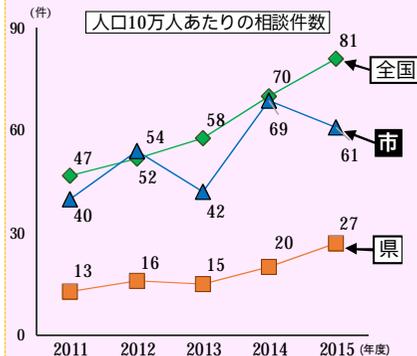
2014年から減少傾向が続いている。  
2015年には、県を下回る。



## 虐待に関する相談件数について

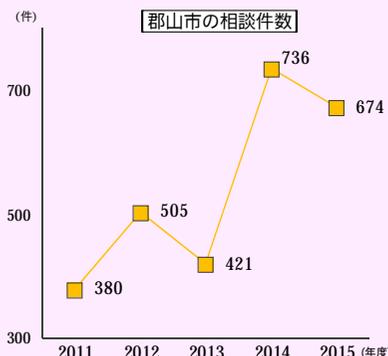
### こどもの虐待相談

増加傾向が続いている。  
全国より少ないが県よりも多い。



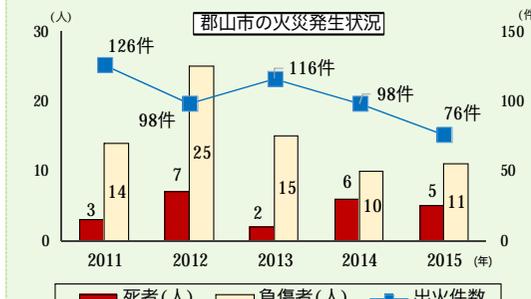
### 高齢者の虐待相談

上昇傾向で2014年に急増している。



### 火災の発生状況

出火件数は、2013年以降減少傾向が続いている。



### 労働災害の発生状況(人口10万人あたり)

全国及び県を上回る状況が続いている。



こども家庭相談センター「相談等の取扱件数推移」、厚生労働省「児童相談所における児童虐待相談対応件数」より

郡山市地域包括ケア推進課「センター別包括的支援事業の実施状況」より

郡山地方広域消防組合「消防年報」より

厚生労働省労働基準局・福島労働局・郡山労働基準監督署「労働災害発生状況」より